

「協働のまちづくり懇談会」会議録

(令和6年10月15日 10:00 市役所3階 市長会議室)

出席者

- ・砂川市認知症を抱える家族の会（7名）
- ・市 飯澤市長、板垣総務部長、安田保健福祉部長、小島市長公室課長

1 開 会

皆さんお揃いということで協働のまちづくり懇談会を始めたいと思います。今日は砂川市認知症を抱える家族の会、ひだまりの会の皆さんにお越しいただきまして、皆さんからのお話を色々お聞かせ願いたいと思いますので、緊張なせずに色々お話をしていただきたいと思います。 それでは、開催にあたりまして、飯澤市長よりご挨拶を頂戴したいと思います。

2 挨 拶

皆さん改めまして、おはようございます。今日は時節柄大変お忙しい中、このように集まっただけでございます、まちづくり懇談会にご参加本当にありがとうございます。 皆さん方におかれましては認知症を抱える家族の会ということで、日々活動されておりますことに本当に心より感謝いたします。認知症は本当に私たちも身近な問題としてですね、前は10人に1人とか5人に1人とか言っていたのが、80歳を超えると3人に1人、90歳を超えると2人に1人と、家族の中でも身近な課題として捉えておりまして、本当に皆さん方の活動もそうなんですけれども、いかに地域で認知症の方々が安心して安全に暮らせるかっていうのが、これからの大きな課題だというふうに認識しております。今まではどこか他人事のような感じで、認知症の方々、こういう方もいらっしゃるんだなっていうような見方をしていたんですけれども、最近はいつ自分になるかも分からないという、一つの恐怖とともに、そういった過ごし方をさせていただいております。本当に何かあっても、おそらく皆さん方本当によく認知症の方々と関わっていらっしゃって、かなり根気強く、忍耐強くといいますか、認知症の方々をいかに理解してあげられるかっていうことを実践されていると思いますので、それが全市内全域にわたって、皆さん方が安心して暮らせる世界ができればいいなっていうふうに思っておりますので、今日はいろんな私たちも知らないような経験値をもとにお話いただいております、それがまた市政の一つ一つの施策に繋がっていけばいいかなというふうに思っておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

【職員自己紹介】

【砂川市認知症を抱える家族の会自己紹介】

ひだまりの会

市長さんに、お礼を申し上げたいと思います。ひだまりの会に、いつも賛助会員として協力していただきお礼を申し上げたいと思います。また、定期総会に部長さんのほか、担当課長さん、ふれあいセンター所長といった我々に関係する方々が必ず出席されて、総会に花を添えていただき、また安田部長さんから力強いご支援の言葉を頂戴しております。

そんなことで、我々も元気づけられて1年務めていますので、お礼と感謝を申し上げたいと存じます。ありがとうございます。

4 懇談会

ひだまりの会

令和6年度の認知症を抱える家族の会の定期総会資料の事業計画案に基づいて、私たちは事業を行っておりますが、それぞれ皆さんの協力をいただき、規模が小さくなくても計画した事業は必ず執行したということで、協力された皆さん方にいつも感謝とお礼を申し上げます。令和6年度も始まってもう10月になりましたが計画通りに進んでおり、来年の3月までまだありますが、役員を中心に話し合いをして未執行がない形で終わるのが1番の目標です。

我々の取り組む交流会や役員会はもちろんですが、世界のアルツハイマーデーの啓発や赤い羽根の協力といった我々のできる分野については、積極的に協力していこうということでお手伝いをさせていただいております。

こういう計画で仕事をしておりますので、細かく聞きたいところがあればお願いいたします。

市長

今年チームオレンジが立ち上がって皆さん入られているということで、去年市長になる前に内海先生から熱く語られたんですが、その時はチームオレンジができていなくて、それを立ち上げて周りでいろいろな支援ができるのが、認知症に対して素晴らしいことなんで、是非とも進めるお手伝いしてくださいと言われてましてですね。

ひだまりの会

それで、立ち上げることになりまして、役員一同心を合わせて講習を受けて資格を取ろうと、そしてチームオレンジの協力をしようということで、役員7名資格を取って参加協力をさせていただいております。

それで私たちの考え方ですけれども、「いきいきと生きる輪になるチームオレンジ」ということで、チームオレンジの一員として頑張っていこうということですね。会議があるときには率先して参加し、今日昼からはひだまりのカフェがあるんですがまた揃って出ましようということになっております。協力できる部分については積極的に協力しあうというのをモットーにしております。

市長

カフェの方も結構回数は月に2回。

ひだまりの会

それですね、市長さんに最後にカフェについて一つご相談がありまして、人が増えることによって今やっている場所が手狭になってきており、市役所は事務をする所だということとはわきまえておりますけれども、できれば大会議室を開放して砂川市が抱えるチームオレンジという形にしていければと思います。担当者の方からそういう話が出てくるんではないかと思いますが、今のところは4階なり1階の場所で収まっておりますが、だんだんとロコミで仲間を連れてくるということで、1人2人増えてきてるんです。

市長

今実際何人くらい。

ひだまりの会

大体30人くらい。

市長

これまた5人10人増えてくると、4階では確かに狭いですね。

総務部長

1階のフリースペースであれば多少は確保はできるんですけど、確定申告の時ですとか選挙もそうですけど、どうしても役所の業務で使う場面の時には開放できないことがあるので、30人いたら4階の展望デッキでは狭いかもしれないですね。

ひだまりの会

そういう時期は、収容能力の関係で近々来ると言うんですよね。大会議室を使用させていただければ、体操もできるし各ブースに分かれて活動もしやすいと思うんですね。

認知症カフェは、認知症になってる方も勉強したいから、自由に参加できるカフェなんですよね。だから、私も1人お誘いしてる人がいるんですけどね。軽度認知機能障害の診断を受けてる方でいつも物忘れして困ってるんだって聞いていたので、カフェにお誘いをしたんですよね。そうしたら、とても雰囲気が良くて毎回来られてるんですね。内海先生のところで診断を受けた後、軽度認知機能障害で認知症ではまだないので1年後受診って言われたそうなんです。それで1年間どうしたらいいのかがわからなくて一番本人にはつらい時期で、カレンダーに書くんだけど忘れてしまって、また忘れてたのかって言われてつらいついて、それで認知症カフェにお誘いしたんです。最初は戸惑って、自分が認知症だとみんなに分かれるんじゃないかって、でも認知症を勉強したい方も来てるから、全然大丈夫だよって一緒に行ったんですね。4階の雰囲気がとっても良くて、自由にお話できたり、好きな手芸ができたり、すごく自由な感じで雰囲気が良かったので毎月参加されて、本当に閉じこもってずっとつらい思いをしていた人なんですけど、そういうところに出ることによって包括の人が認知症のことについて話してくれたり専門看護師の方が話してくれたり、そういう時間もあって学ぶこともできるし、自由に話せるし、すごくいい雰囲気なんです。だから、その人にとってはちょっと楽しみにしてる。月1回何でも話を聞いてくれるし、そこに包括の人でも市役所の方も病院の方も専門家の方も来てるんです。

今回は介護者側からも発信させていただいて、在宅介護について親を10年看たっていう経緯が本当につらくて困ったと、現在介護されてる方もいらして認知症の配偶者をカフェに置いて、自分はちょっと家に帰ってその間休みたいっていう理由で利用されてる方もいらっしゃるんですね。本当に切実なんです。皆さんの話を聞いてると、私が認知症家族会に入れてもらった時、親を介護して毎日泣いて暮らしてつらすぎた時に生活相談員さんがこういう会があると連れてくださって、私だけじゃないんだなってすごく心強く思ったこと覚えてます。その時、介護されてた人たちがもう18年目ぐらいですから、年齢的に皆さん認知症ご本人になってる方もいっぱいいると思うんですよね。私の時は親や姑を介護してる人がすごく多かったんですけど、今は配偶者を介護してる人がすごくいらっしゃいます。家族会にいらしてくれてる方はいいけど、まだまだ1人で悩んでる方がいっぱいいらっしゃると思うので、もっともっと掘り起こしていかなくちゃいけないと思うんです。この間電話がかかってきて、お子さんがご両親とも砂川に住んでいて、両方とも認知症介護1、両方とも支援が必要な方で家族会に入りたいっておっしゃってるんで、今月の

交流会にいらっしゃるということなんです。家族会に入って介護を学んでほしいっておっしゃるんですけど、認知症のご本人が介護を学べるだろうかって、どうやって私たち支えていけるかなっていうのを皆さんとこれから協議しなきゃいけないんです。いろんな悩みを持った方がいっぱいいらっしゃって、お家で1人で頑張ってる方もいっぱいいらっしゃると思うんですね。

市長

高齢者だけの世帯だとか、一人暮らしの方ですとか先ほど言われてたように引きこもっちゃうとね。

ひだまりの会

認知症の方が認知症の方を介護する、認認介護って言いますよね。

今、正会員が24名で決して多い数ではないんです。この24名のうち、もう見取り終わった方が大半、そして何人かの家庭の方が養護施設に入所されているというようなことで、実際に自分の家庭で介護してるという方は皆無に等しいというような状況なんです。要するに介護したくても介護できない老老介護とか認認介護という認知症の方が認知症を抱えるというような形で、自分のところでは介護しきれないということになってるのが現状なんですね。そんなことですね、今正会員24名で活動しており、チームオレンジ、それからひだまりカフェというものを通じて、いろんな方と当事者それから家族の方というろいろ出会いが出てまいります。そうすると、その出会いの中から我々と一緒に活動しませんかという会話がでてくると、これから我々の会もだんだん増えるんじゃないかと。そういった人がいれば、積極的に我々から声をかけて一緒に活動しませんかと、決して1人で苦勞を抱き込まないで行きましょと、これから取り組んでいこうと考えてるんですね。ですから今24名ですけれども、これから我々も力を入れて30名にし、40名にしていきたいと思っております。そんなことですね。これから認知症の方はどんどん増えてくるので、我々の受け皿というものをしっかりと固めて、そういった人がいれば1人でも多く、我々の皿の中に入れていただき一緒に活動する形に持っていくのが我々の一致した考え方なんです。

今のチームオレンジのことなんですけれども、認知症家族の会の全員がチームオレンジに入っていますし、私も去年この家族会に入りまして、今年ステップアップ講座を受けて、チームオレンジの一員になったんですけれども、そのステップアップ講座の内容の中でこうしたらいいんじゃないかなと思いついたことがありまして、高齢の方が地域包括支援センターに入れなくて、周りをうろうろしていたっていうようなお話があったんです。

そういうことで、子ども１１０番という協力する家庭の玄関にありますよね。あれってすごくいいんじゃないかなと思って、いつも見ているんですけども、チームオレンジについても、一員であるというような子ども１１０番のような掲げるようなものがあればいいなと思います。

市長

黄色い札ですよね。

ひだまりの会

そうですね。ここの家はチームオレンジで、認知症に協力的な家ですよというような表示になるようなものがあれば、高齢になればなるほどどうしても敷居が高くなって、こんなことで相談していいんだろうかと行き留まったりする方も、そういうものがあれば、地域包括支援センターの前にチームオレンジにちょっと相談してみようとかに繋がって、何か協力することがあればいいなと思います。それから、認知症の方に対する偏見がまだ結構多くて、認知症と知られるのが嫌だとかあると思うんで、そういうもので認知症の方に協力的ですっていうような見える化をして、こんなにも協力したいと思ってる人がいるんだということに繋がっていき、子ども１１０番と同じようなものになるんじゃないかなと思います。ステップアップ講座のときにも、講師の内海先生だったんですけどそういうものがあるといいですっていうことを話しましたし、地域包括支援センターとチームオレンジの会でも、こういうものがあつたらいいと思いますと申し上げているんですけども、今この機会をいただきまして、市長さんにチームオレンジの一員としてこういうものがあつたらいいと思い申し上げました。

それと１月から法律ができて、今チームオレンジもいろいろな活動したり参加しているんですけども、地域包括支援センターがチームオレンジの活動をされてるんですけども、法律で地域で支えるっていうようなことなんですけれども、地域っていうのはやっぱり町内会で支えられ、地域住民も町内会に支えられていますから、町内会の方が認知症に対する知識を少しずつ積み重ねていってもらった方が住みやすい生活につながるのではないかなと思いますし、出前講座とかあるようですのでそういうところで知識を深めてもらえるようなことがあればいいなと思っているので、この機会にお話させていただきました。

市長

例えばですけど、一般の方がチームオレンジと分かればいいんですけども、もし分からなければ表示の仕方とかいろいろ考えればいい話でしょうけれども、認知症に気づいてる方、気づいていない方がそれぞれいらっしゃると思うんですけど、チームオレンジの家

だと分かる表示の仕方ってどういう形がいいんでしょうね。チームオレンジを分かっている方はすぐ行けるんでしょうけどね。

ひだまりの会

今のお話も今後そういう形になっていくでしょうけど、現時点においては浸透度がまだ少ないですから、今は活動してそれを持ち上げて、まずはチームオレンジを皆さんに知ってもらうため、まずは種を蒔いて花を咲かせられれば話したような形にはなってくんですけど、今はもうちょっと理解をいただく段階ですかね。

ゆうで健康フェスティバルがありましたよね、あれは100歳体操の10周年記念の関係ですけど、その時に私たちも1画でひだまりの会をアピールしたんですけど、包括支援センターさんも来られ、そこに北海道に3人いる知事から任命された認知症希望大使っていう方が赤平に1人いらっしゃってその方が来られたんです、認知症希望大使っていうのは自分が認知症なんです。健康フェスティバルですからいろんな人が来られ、その1画で自分の体験をお話ししてくださったんですよ。だから、そこを通られた方にはちょっと気にかけてたり、分かってもらえたかなって思うんですね。その方は認知症になったけど仕事は続けてるそうなんです。最初に変だなと思った時に周りの同僚から病院に行けって言われて、病院に行ったらうつ病だって言われたんですけど、最終的に市立病院の物忘れ外来を受診して若年性認知症って診断を受けたんですけど、周りの人ができないことはやってくれてできることをやるっていうことで、部署は変わったけどそのまま続けて勤めているそうです。その時言われてましたけど、いろんな企業がありますけど認知症って診断されたら7割の会社が解雇する。認知症に対する偏見が強くてずっと働けるっていう方がまだ少ないので、皆さんの認知症でもできることはたくさんあるという認識を高めていくことが、若くして認知症になった方が勤めていくためには必要。偏見と同じく知らないって方が多いです。認知症だと何もできないっていうふうに。

認知症ご本人が次のカフェに来て、さりげなく大使さんの話聞きましたって聞いたら、あれはね恵まれてるからだよってそんなふうに行くわけないだろうって、あんなふうに行くのは本当にわずかだってすごく落ち込んでらっしゃるように見えたんですね。やっぱりまだまだ偏見イコール知識がないっていうことがいっぱいあると思うんですね。

市長

企業さんにしても、そういう理解があるから勤め続けられるところであってね。

ひだまりの会

その仕事ができなくなっても、部署を変えればできるということもあるので、ちょっとした配慮で継続して仕事ができる。

もちろん給料は下がりますでしょうね。

大使なった方も、診断を受けた時に大学生の子供が1人いて、仕事を辞めてしまったら大変だったけど、上司の理解があったのでずっと働いてるって言ってました。

7割の方がやめて配偶者に養われているということが、全国的にも多くなって言ってます。すごく若年認知症の方が増えてきてる。

僕たちもそういう人の話を聞くと明日は我が身かなって。皆さんがそういう気持ち持ってもらえれば心強いなと、ちょっと部署を変えてあげることによって仕事は継続できるということ。認知症だから、まるで何もできないわけじゃないので、そういうことで継続して仕事ができるということですね。

市長

急にみんなころっと変わるわけじゃなくて徐々に徐々にですからね。どこで気付くかっていうね。

ひだまりの会

人数的にはまだ少ないかもしれませんが、だんだんと多くなってきていることは事実だと思います。3・40人のこのサークルの中でも、この1・2年の間で3人認知症っていう診断を受けて、今まではそんな認知症の人なんて聞いたことはなかったんですが、身の回りでもひたひたと多くなってきているので、結構多くなってきているなと実感はしています。それで広報とか掲示板にチームオレンジのこと、カフェのことについて掲載されても、認知症の家族がいる人とか認知症に興味のある人は目にとまるかもしれませんが、一般の実感していない人は目にとまらないじゃないかなと思います。もっともっと一般の人が認知症について興味のあるようになってくれたらいいなと思ってます。

市長

そうですね。特殊な病気ではないんですよね。もう当たり前に誰もがなり得るというか、なるんですよね。それを、周りが当たり前のように受け止めてあげれるといいんですし

ようけどもね。昨日までできたことが今日になったら急にできなくなるとか、そんな話でもないんでしょうからね。

ひだまりの会

認知症のお話がありますというところに行くのちょっとためらうけど、この間の健康フェスティバルみたいに、野菜の摂取量の測定とかいろんなコーナーがあって、その中に私たちの会もあったから、認知症の方も立ち寄りやすくてよかったですね。健康に関するフェスティバル的なものがあるって、そこに認知症のコーナーもあると、自然と気にかけてもらえる感じがあるかと思いますよね。みんなが健康に意識を持ってもらうために、脳年齢とか血液のチェック、野菜をちゃんと取れてるかっていうベジチェックがあったり、気楽に立ち寄れるのすごく良かったですよね。

私たちの認知症コーナーが一番人が座ってましたけど、そういう中でちょっと立ち寄れるからあれはいい方法だね。私たちだけってなったら立ち寄りづらいから、来てくださいじゃなくていろんな場に出ていくっていうこともありかなと思います。

市長

健康フェスティバルの主催は、100歳体操の周年記念事業としてやったんですね。

ひだまりの会

来年もやってほしいって声も結構あるんですよ。

市

ふれあいセンターも防災も出させてもらいました。

ひだまりの会

すごく良かったですよね。認知症について学びましょうとか別々にすると難しいので、段ボールベッドとか防災の知識もわかる、健康に関することもある、認知症のこともわかる、食べる場所もあるという風にして、一緒に来たらここ行ってみようかなとか、ついでにここも見てみようとなり、地域と住民を支えるみたいな感じになるので来年もやってほしいですね。普段からみんな健康に関する不安や災害に関する不安もあるので、すごく良かったです。

恒例行事と捉えて、1人でも多く参画するっていうか参加してもらい、理解を深めてもらうってことだと思うんですよ。力を合わせて人を集めてこういうことやってるんだと

いうことを、みんなに理解していただく形に持っていきたいですね。各コーナーは本当に大変勉強になるんですよね。

ふれあいセンターや包括支援センターにわざわざ相談に行くとかってなかなかできないので、みんながあんなふうに来てくださって、気楽に行ける家族連れでも行けるってこれからはそういうのいいですね。

それはもう素晴らしい企画だったね。

市長

昔は健康祭りをずっとふれあいセンターでね。

ひだまりの会

ああいうかたちのイベントって、一つ一つがやるんじゃなくてみんなが一緒になってやり、そこにみんな集まって自由に行けるっていう。病院でも病院祭をやってますよね。

市長

今はコロナでやってませんが、毎年10月にやってたんですけどもね。

ひだまりの会

認知症の家族の方も、みんなが住みやすい街になってくれたらいいなと思ってます。

市長

認知症カフェとかを皆さんやられてて、家族の方と認知症のご本人の方もいらっしゃってて、認知症のご本人の方はやっぱり家族の方が連れられてくるんですかね。

ひだまりの会

そうですね。1人の方もいますね。誰が本人なのか家族なのかも分からないところがまた面白い。面白いっていうか、自然でいいかなって。私たちはウェイトレスばあちゃんになってコーヒーを運んでいくんですけど、どうぞって言ったらいらっしゃいませって本人に言われたんです。前はそんなこと言う人じゃなかったけど、安心して証拠なんだなって思ったんですね。さっきみんなそんなふうにはいかないよって言ってた方なんです。毎回いらしてるので、カフェがよりどころなんだなって。包括の人も来てるんで相談したい方もいらっしゃるし、施設に入所されてる方も連れてきてもらってるんです。入ったば

っかりの方が寂しいからって言って、顔なじみの人に会いたってことで月2回すごく楽しみにいらっしゃってて。

市長

やっぱり人と関わるのが一番ですよ。

ひだまりの会

カフェに認知症の当事者の方がたくさんいらっしゃれば、もう大成功なんですけどね。基本法なんかでも言ってますけれども当事者をいかに取り込むか、当事者次第でこの基本法も生きるも死ぬも出てくるんだと、だから当事者をいかに見つけ出して引き出すかと。そしてその当事者を、みんなで支えあって生活していくということなんです。ですからカフェも、当事者と家族の方と一緒に来るのもいいんですけど、当事者にとにかく来てほしいなと。当事者がどの方か分かりませんので、さすがに誘いにいくことはできないんですけどね、まずは自然に口コミでも何でもいいですから来てほしいなと。そういう人が来た際には、手厚くいろいろな話をして、また来てみたいと思うような形でお別れする。そういったことを一生懸命考えてるんですけどね。一人でも多く取り込むために。

カフェも今年から、1回はコーヒーとか好きな飲み物を1回100円で飲むような形式になってるんですよ。飲み物っていうのはすごくいいなと思って、飲んだらほっとするよなところもあって話も和やかに進むので、そういうような作用って飲み物にはあるんだろうってね。もう1回は、脳トレやゲームをしたり歌の好きな人は歌ったり、そういうような場になっていて皆さん楽しんでますし、飲み物もすごくいいなと思って参加してます。

市長

会長が言われる当事者の方と言っても、一応診断を受けた方も受けてない方もそれぞれですよ。予備軍の方もですよ。新薬が出て進行がちょっと遅れるとか、やっぱりそういう情報の共有の場にもなりますよ。

ひだまりの会

ひだまりの会からちょっと離れるかもしれないんですけど、配偶者が認知症があって、そして介護3になって施設に入ったんですけど、今は病院に入ってます。ここから行くとなるとちょっと遠いんですよ。市立病院だと長く入ってられないから、砂川市に医療ができながら入れるような病院ができないんでしょうか。ずっと最後まで見てもらえる医療関係のある病院となると、やっぱり滝川とか新十津川とかこういった遠い所にある

んですよね。車を持ってる人はいいいんですけど、車も何もなくバスを利用して行くと1日がかかりなんですよね。やっぱり大きな病院でなくていいので、砂川にも1つは欲しいと思うんです。

市長

そうですね。うちの市立病院は急性期に特化した病院なんで、慢性的に医療を受ける病院っていう位置づけではないんですよ。そうなってくると先ほど言われていたように、慈恵会さんとか、奈井江の国保病院、新十津川、歌志内、そういうのは一応役割分担的なものにはなってるんですけど、市内の人にしてみると遠いんだよねっていう話は、やはり何件か僕の耳にも入ってくるんですけれどもね。

ひだまりの会

皆さんそれぞれ自家用車で行けるような人達ばかりだったらいいんですけど、年などで車の運転もできないしやっぱり歩かなきゃいけないし、だからといってハイヤーを利用するとそれだけ金額がかかるので、そうそうとお見舞いに行くってこともできないですよね。病院でそういう手当てをしてもらって元気になると行く回数が増えてくる。自分に財産とか預貯金があるならいいんですけど、やっぱりそう考えたら近くにあったらと願ってるんですけど。

見当違いのことかもしれませんが今思いついたんですけど、乗り合いタクシーってありますよね。私は利用してなくて、制度も広報で読むぐらいしか分からないんですけど、乗り合いタクシーって砂川市内だけなんですよね。近隣の奈井江とか新十津川まで行くととなると結構交通の便が悪いので、介護のために乗り合いタクシーが利用できたら便利なんじゃないかなと思います。

市長

乗り合いタクシーは、まずは利用してもらって市内に来てもらおうっていうようなことですね。だから、自宅から終点が病院であつたりだとか、街中に出てきてもらいましょうといったことでやっていて、介護のためにお見舞いに行くよとかで近くまでの対応はしてるはずではあるんですけどもね。介護のためにとなると、今言ってたように新十津川とか滝川とか市外についていうところには、乗り合いタクシーは対応してなくて、そこは公共交通機関をできるだけ使っていただきながら、バスだったりとかタクシーだったりとかJRも含めて、うまく組み合わせて使っていただければと思うんですけれどもね。

ひだまりの会

みんな地方に行かなきゃいけなくなるのでちょっと大変ですよ。だから、地元でそういう病院が一つでもあれば助かりますよね。

市長

逆にうちの病院は急性期の病院で中空知唯一の病院なんで、砂川にいと意外と気づかないんですけれども、例えば芦別からこっち来ますよといったら1時間かかっちゃうんですね。沼田から来ますよっていても1時間かかるんですけども、市内にいるメリットというのは、遠くても10分あれば急性期の病院に来れるっていうすごく大きなメリットのある病院なんです。それで先ほども役割分担という話をさせてもらってるんですけども、中空知の中で病院の機能としてどこがどういう機能を持って中空知の医療圏を守るんだっていうところもありまして、まずうちの病院は高度急性期って本当に大変な人たちが救急車で運ばれてくるような機能で、そこで一時的な処置の終わった方は、慢性だとか回復期の方に行っていただいて治療してもらってというような形になるので、言われるように慢性期の病院っていうのがうちの市には少ないというか、慈恵会さんが慢性期の病院になります。

ひだまりの会

うちの場合は新十津川の病院に移ったんですけど、砂川から滝川まで行って、そこから新十津川の病院まで毎日通いました。そうしたら、本人が新十津川の病院は嫌だと言っているので、ある程度して家に連れて帰り自宅介護をしたんです。だから、皆さん言うように交通の便が大変だから、滝川にしても新十津川にしてもそういうところに入ると通って行く人が大変なんですよ。運転できる人がいいんですけどね。

滝川まではバス、電車はあるんですけど、そこから先が何時間に1本っていうのしかないで、やっぱりちょっと大変なんですよ。

大変な中でも、自分自身がやっぱりしなきゃ駄目だということもあるから、市の方でそういうことを考えながらしてくれてるんですけど、先ほど言ったように慢性期の病院があるんだから、皆さんが自由に入れるっていうようなシステムがあればいいんじゃないかなと思うんですよ。やっぱりそういうことは大事だと思うんですよ。近くにそういう病院があるのであれば、入れるようにしていただければ、本当にいいんじゃないかなと思いますね。

市長

病床数って必ず決まっていますので、それがいっぱいだと当然入れないような状況にもなってきますんでね。結構、入られてる方も長いですよ。なかなか空きがなくて入れないってケースも病院なんでありますからね。

市

私の時も、市立でお世話になって当然1, 2ヶ月すると慢性期の方になってなり、両親とも奈井江国保病院だったんですけども、その時もやっぱり奈井江とか新十津川温泉病院とか美唄の花田病院とか、そういうところは紹介しますよねって言われたんですけど、確かに地元の病院っていうのは調整してくれる部署でも出てこなかったもので、もしかすると受診してないと入院ができないような仕組みなのかもしれないですよ。

ひだまりの会

砂川に大きい拠点病院があるから、そういうのが作れないのか分かんないんですけど、福寿園とかリンゴの里とかそういうところに長く入れるならいいんですけど、やっぱり治療しなきゃいけないとなると、病院でなきゃいけないから困るなって思ったんです。

いろいろ話した中で、やっぱりカフェの設置ですけど、これは大変良いものだと思いますので大事に大きく育てていきたいなと思ってますね。そしてチームオレンジが出てきたということから、このチームオレンジを発展的に大きくして協働のまちづくりを進めていくと、そして協働のまちづくりですけれども砂川市アメニティタウンと快適都市だということになってます。ですから、チームオレンジで取り組みのできるもの、要するに花壇の草取りとか、そういうようなものを取り入れて作業を開始していくと、そして環境の整ったまちにしていくとアメニティタウンに向かっていくというような、みんなで汗をかき合うような形にしていきたいなと思いますね。

最後に私どもをお願いなんですけれども、第1と第3の火曜日に一生懸命カフェやっていますけど、第1火曜日は対話ということでコーヒーを100円で販売しておりますので、大変忙しいところ恐縮ですけども、時間があれば市長さん、副市長さんにも来ていただいてコーヒーを飲んでみんなで話し合うという場も必要じゃないかと思います。部長さんは毎回来て応援していただいているんですけど、やっぱり市長さん、副市長さんが来るとちょっと雰囲気が変わってくるのでぜひ飲みに来てください。

そんなことで我々も微力ですけども、一生懸命チームオレンジに関わって頑張りたいと思っています。また、我々にできることがあれば市の担当から伝えていただければ、それに向かって一つになって取り組んでいきたいなと思っています。

市長

今日は本当にいろんな貴重なお話を聞かせていただきまして、本当ありがとうございます。今ほど会長の方からもありましたけども、月2回のカフェということで30人以上が毎回来られて、会場のお話がありました。がなんとか希望に添えるような形でセッティングできればと思いますが、大会議室とかも結構使用頻度が高くて時間帯によっては難しいところもあるかもしれません。来年4月には街中交流施設ができて交流スペースがございまして、雰囲気変えて向こうでやるっていうのも1つあるのかもしれませんが、そこはいろんなところと調整しながらうまくひだまりカフェの方が繋がって行って、本当に人数が40人50人と増えていくと全然手狭になると思いますので。逆に40人50人と増えるように活動もお願いしたいと思います。本当にこれから認知症の問題は、全市的な問題になると思いますので、どういう認知症の方がいても優しい砂川であれるようにですね、私どもも協力できることは協力いたしますし、逆に協力していただくことは協力をお願いいたしまして、今日のお礼のご挨拶にさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。